



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

ベトナム子ども基金通信

No.59
2013.6.10



ホーチミン市障害児教育研究センターのタム・センター長(右)とヒュー・副センター長(2013.5 ホーチミン)

ベトナムの障害児は全国で約100万人いるそうです。正確な数字は分かりませんが、多くの障害児がいることは確かでしょう。そして、その多くは教育を受けることなく、また職業に就くことさえできずに、宝くじ売りや物乞いなどで生活しています。

今回、ベトナム子ども基金の支援金で、ホーチミンにある障害児教育研究センター(ホーチミン市・障害者のための統合教育サポートと開発センター)へ、子どもたちのための玩具やリハビリ用具を寄付することができました。また、身体障害、知的障害、そして多重の障害を持った子どもたち、そして親御さんたちに、里

親会員の有志が集めてくれた不要となったおもちゃもたくさん寄付してきました。

このセンターは、0歳から6歳までの障害児を各地で探し出し、可能な限り普通学級へ「統合」することを目的とした国立の施設です。しかし、各地から集まってくる子どもたちは、貧しい家庭の子が多く、週何回かの通所の交通費が負担できずに訓練を途中であきらめざるを得ない親も多いそうです。

おもちゃを手にした子どもたちは、うれしそうな笑顔、反応をしてくれて、親御さんたちは、こちらが恐縮するほどに感謝してくれました。

ベトナムの将来を担う、前途有望な里子たちの支援は、とても有意義なことです。しかし、こうした子どもたちに光を当てること*、このことは、貧富の差など、さまざまな矛盾を抱えているベトナム社会の「光」となると思います。

くろは ひろし
(黒羽 宏)
運営委員

*ちなみに、心身障害児教育の先がけであった糸賀一雄氏は、『この子らに世の光を』あててやろうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く存在そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の光に』である」と言っています。

24の瞳から始まったベトナム人留学生指導

2004年10月。本校日本語学科に初の外国人留学生となる12名のベトナム人留学生たちが入学しました。入学式の1週間前に来日したばかりの留学生たちは、先輩も身寄りもない盛岡で入学式に臨んだのでした。しかし、彼らの瞳には不安の色はみじんもなく、キラキラ輝いていたのがとても印象的でした。

そのときから始まった私の留学生指導も、今年で10年目を迎えることになりました。ここまで続けられたのは、いろいろな方々のご協力があったからであり、関係の皆さま方のおかげと大変感謝



来日直後の学生と私

しています。

さて、留学生を指導していると、「うれしいこと」「楽しいこと」もたくさんありますが、「頭にくること」「驚くこと」「困ったこと」「嫌になること」もたくさんあります。まさに「喜怒哀楽とはこの仕事のことをいうのか」と何度も思ったものでした。

しかし、次々やってくる留学生の輝く瞳を見ると、「また頑張ろう！」と思うから不思議です。それがあからこそ、今まで続けてこられたのかもしれない。

留学生を指導して、まず困ったのは生活指導でした。もちろん日本とベトナムでは生活習慣が違いますから、私も事前にある程度のことは想定して指導に臨みましたが、実際始めてみると、こちらの予想をはるかに超えることの連続でした。

ある日、寮の掃除を指導していたときのことでした。「廊下を掃除してください」と学生に指示したら、木造アパートの廊下にいきなりバケツの水をぶちまけモップ掛けを始めました。あれよあれよという間に水が染み込み、階下の部屋を水浸しにしてしまいました。慌てて階下の方におわびに伺ったのは言うまでもありません。

また、新生が入日したときは、先輩たちが歓迎会を開きたいというので許可したら、アルバイトで忙しいからと午前0時から歓迎会を始めてしまいました。騒がないように注意はしましたが、始まると歯止めが利かなくなり、後日近所の方からクレームをいただくことになりました。

もうひとつ困ったことは健康管理でした。学生たちは全員自炊をしています。バランスよく食事するよう指導はしますが、アルバイトも忙しく勉強も忙しいのが留学生活ですから、睡眠時間がどうしても少なくなりまして食事も偏りがちになります。しかも、盛岡の冬は本州一の寒さですから、ベトナムから来た学生たちにとっては、冬場に体調を維持することはなかなか難しい状況でした。



盛岡の冬(学生寮前)

長く厳しい冬が明け、やっと春がやってきた4月。その事件は起こりました。

2年生の女子学生が「せきが出る」と言って学校を休みました。

病院を受診させたところ、なんと「結核」と診断され即入院となりました。慣れない環境で、しかも極寒の盛岡の冬を乗り切るうちに免疫力が低下し、体内に潜んでいた結核菌が活性化したようでした。

学生にとっては寝耳に水の宣告で、大いに動揺してしまいました。「完治するのだろうか」「両親もそばにいないくて心細いの…」「入院が長引けば勉強が遅れる」「勉強が遅れば、夢だった大学進学を諦めなければならぬかもしれない」「治療費・入院費はいくらかかるのだろうか。日本の治療費は高いというし」等々、不安ばかりがまだ二十歳そこそこの学生の肩に重くのしかかりました。

我々自身も突然の宣告に動揺しましたが、学生には「心配しなくていいから、まず病気を治すことに専念しなさい」と平静を装いながらアドバイスし、病院や保健所、市役所と相談しながらいい解決策を模索しました。

幸い、国の感染症法により治療費が無料になったことで学生の負担が減りましたし、病院の献身的な治療で病状が順調に回復したことから、約1カ月で無事退院できましたが、入院中の1カ月間、不安だった彼女は毎日病室で泣いていたそうです。平静を装う私自身もどうしたらよいか途方に暮れかけたのですから、本人の不安の大きさは計り知れませんでした。

そして退院後、学習を再開した彼女はそれまでの遅れを取り戻すべく猛勉強して、見事に国立大学に合格するのですが、入院から卒業までの1年間のことは、忘れられない思い出として私の心の中に鮮明に残っています。

結核と診断され、専門病院に引率したときの不安そうな顔。隔

離病棟の中での寂しそうな顔。そして、退院したときのうれしそうな顔。勉強の遅れを取り戻すべく必死に学習に取り組む後ろ姿。大学に合格したときの喜びの表情。卒業式での満面の笑みと別れの涙。すべてが昨日のこのように思い出されます。



教室での学生たち

その後、彼女は大学を卒業しベトナムに帰り、現在は日系企業で元気で働いています。残念ながら卒業後に彼女と再会することはできませんでしたが、今でもFacebookで交流を続け、元気な様子を写真で見えています。

他の卒業生ともFacebookで交流していますので、「大学卒業し

ました」「就職しました」「結婚しました」「子どもが生まれました」と、毎日のように彼らの近況が入ってきます。元気で活躍している卒業生たちの姿を見るたびに、私の方が元気をもらっています。

本校のような日本語学校は、留学生が大学や専門学校に進学したときに授業が十分理解できるような日本語能力(日本語能力試験N1、N2)を身に付けさせることが最大の目的です。しかし一方、「日本語学校は、留学生が来日して初めて入学する学校」でもあります。ですから、これから長く日本で生活する留学生がスムーズに日本生活に溶け込めるよう、日本の基本的な生活習慣を身に付けさせることも重要だと思っています。

近所とのトラブルがあれば落ち着いて勉強できませんし、アルバイト先とのトラブルがあれば経済的余裕がなくなります。つまり、「日本留学が成功するかどうかは、日本の生活習慣を理解し実

践できるかどうかにかかっている」と思います。

私が彼らにしてあげられることはほんのささいなことですが、縁あって本校を選んでくれた学生たちが、これから続く留学生生活を少しでもストレスなく、楽しく送ってくれるよう願って指導をしています。

そしてこれは私だけの思いではなく、日本語学校で留学生を指導する教職員に共通した思いなのではないかと思っています。

ししど さとし

(宍戸 諭)

盛岡情報ビジネス専門学校
日本語学科部長

卒業式にて

青葉奨学会奨学生訪問報告

訪問日:2013年3月26日

学生名:レー・トゥアン・ダット
男子

生年月日:1998年8月2日

学校:バックソン中学

学年:8年生

住所:ハイフォン市アンズオン郡
バックソン村。ハイフォン市
奨学会事務所から西(ハノイ
方向)に約10km。ここから2、
3kmのところには野村ハイフ
オン工業団地があるが、村の
周りは田園地帯。同行者:トウイ氏(ハイフォン市
奨学会 青葉奨学会の担当
者)ミンさん(タンロン大学日本
語学科教員)チュエンさん(ハノイ大学4年
生)

母子二人で暮らしていたが、2011年12月13日に母親が亡くなり、現在一人暮らしをしている。生活の様子を確認するため、子ども基金事務局の依頼により訪問。

訪問時、ダットさんの家には、バックソン村奨学会主席と共産党執行委員が来ていた。

ダットさんは、母親の兄である伯父の敷地内に福祉支援によって建てられた家で一人暮らしを続けている。青葉奨学会の履歴票の保護者欄にサインをしているレ・ティ・フォンさんは、母親の姉で、ハイフォン市内に住んでいる。隣家は伯父の家だが、主に世話をしているのは、伯母であるフォンさん夫婦。訪問時も、フォンさん夫婦が待っていたが、

隣家の伯父家族はだれも来なかった。フォンさんによると、伯父自身の生活も苦しく、伯父の妻がダットさん家族を良く思っていないためとのこと。村内には、隣家の伯父以外にも親戚がいる。フォンさんが、ダットさんを訪



裏庭で。シャツは学校のユニフォーム

ねてくる頻度を尋ねなかったが、ダットさんはフォンさんを慕っており、非常に優しく、叱られたことは一度もないと話していた。青葉奨学会の書類もフォンさんが管理していた。

日午前に補習がある。補習の学費は免除されている。通常の学費については、尋ねなかったので不明。授業以外の時間は、農作業をしている。日曜日は、近くのカオリン寺で過ごすことがある。



家は、2009年に建てられた。居室、台所、トイレで、約20㎡。電気は来ているが、水は雨水。プロパンガスを使っている。節約して、ボンベ1本を1年近く使うとのこと。家財道具は少ない。ベッド、勉強机、テーブル、祭壇、壁掛け扇風機、居室に電灯1つ、テレビは見当たらなかった。以前も、他の親戚の土地に支援で建てられた家に住んでいたが、土地が売却されたので、現在の場所に移転した。



この門の中に3軒の建物がある。見えている家は伯父の家

ダットさんは、通学しながら農作業もしており、約1サオの米を作っている。家のすぐ近くにそれぞれ100㎡の2カ所と、歩いて数分のところに180㎡の田んぼがある。年2回、本人が食べるのには十分な収穫がある。家の裏には数種の野菜が植えてあった。今現在は、授業は午後で、週4

カオリン寺は、ダットさんに寺院内に住むようにと声をかけてくれているが、本人が今の家で暮らしたが、断っている。理由は、今の慣れた生活を続けたいし、母親のいた家であるからとのこと。

母親は、生まれつき体が弱く、数年前に失明した。ダットさんは、学校に通いながら、母親の身の



支援により建設されたことを示すプレート

回りの世話をし、農作業をも行ってきた。バックソン村奨学会によると、以前、里親宛にダットさんが母親の食事の介助をしている写真を送ったとのこと。青葉奨学会事務局、子ども基金事務局を経由していると思われる。

なお、里親から来た手紙が、ダットさんの元に届いていた。ダットさん本人は、ゆったりして温和。口数は多くはないが、初めての訪問者にも物おじしない。



居室部分 右から伯母のフォンさん、ハイフォン市奨学会トウイ氏、共産党執行委員、フォンさんのご主人



右端は、村の奨学会主席。その後ろに勉強机。電灯はその上の1つだけ

家の中は、非常に清潔で、整頓されていた。お土産として、ホーチミン市で購入した白いYシャツ、通学にも遊びにも使えるような白いTシャツと、遊び用の青いTシャツを持って行った。体格が分からないので、今は大きすぎ



よく掃除されている台所。自分で調理するでも後々使えるだろうと成人の普通サイズにしたが、身長もあり、がっちりした体格なので、今すぐにも着用できそうだった。

ハイフォン市奨学会も、多くの困難を抱えた学生たちの中でも、



黒いパイプで雨水を直接引いている。食器洗い、体を洗うのに使う。水槽にも雨水をためている

ダットさんは特別な境遇にあると認識している。ダットさん本人は、進学したいと考えている。現在の成績はTrung binh(可)であり、本来の青葉奨学会の基準から

はずれている。普通高校、職業教育など、どのような道があるか、地域の奨学会、青葉奨学会、子ども基金で協力し、支援を続けてもらいたい。

おかむら たみこ
(岡村 多美子)
運営委員



台所側から居室を見る。左の青い扉はトイレ



働き者の手



ダットさんの家の前の道。田んぼへ行く。田んぼまで3分



レジェンドコーヒーはいかが？

ベトナムには「タヌキのうんこコーヒー」という素晴らしくおいしいコーヒーがある。のっけから「ちょっと！下品なんだけど！」と読む気がうせるような表現で申し訳ないが、いろいろ言い換えを考えたものの、現地人が使っている表現が一番しっくりくる。

この記事を書くに当たり、この^{きてれつ}奇天烈コーヒーを調べていると、ベトナムだけでなく世界各国いろんな種類のうんこコーヒーがあり驚いた。まさか、世界中で愛さ

れているとか？ まあ、それはさておき、コーヒーといえば、今やベトナム抜きに語ることはできない。

ご存じない方も多いかもしいないが、実はベトナムは2012年コーヒー輸出量世界第1位(生産量ではない)のコーヒー大国である。今でこそコーヒー市場の中心国であるベトナムだが、昔からコーヒー栽培をしていたわけではなく、フランス統治時代に冷涼な高原に目をつけたフランス人が、コーヒー栽培を始めた



のがきっかけ。

そんなコーヒー大国ベトナムに、伝説のコーヒーと呼ばれるコーヒーがある。それが冒頭に挙げたコーヒーのことであり、ベトナムコーヒー最大手チュン・グエン・コーヒー (Trung Nguyen Coffee) の「レジェンド」。世界のコーヒー通が「死ぬまでに1度は飲みたい世界3大コーヒー」のひとつといわれている逸品。レジェンドというだけにコーヒーにまつわる伝説がある。

『ある日のこと、コーヒー農園の家に大事なお客さんが来ました。しかし、コーヒー豆をタヌキに食べられてしまいおもてなしするのが何もありませんでした。それで、仕方がなくタヌキのふんからコーヒー豆を取り出しキレイに洗ってコーヒーを入れたところ、お客さんが今までこんなおいしいコーヒーを飲んだことがないと言って、とても喜んで帰ったそうです』

これがレジェンドと呼ばれるゆえん。「大事なお客さんに、そんなコーヒー出すっていかがなものなん？」と思うか「キレイに洗ってまでして、お客さんをもてなすという心意気が偉い！」と思うかは人それぞれだと思うけど、私は出せないなあ〜。いくらキレイに洗うといっても物が物だし、ましてや大切なお客さまの口に入るものなのによって思ってしまう。まあ、これはあくまで話であって、実際は衛生管理が整った環境下で製造されているとのこと。

店舗で飲む場合、値段は普通のコーヒーの3倍。場所によって多少値段は違うが1杯17万ドンくらい。日本円に換算すると800円。日本でも喫茶店で1杯800円のコーヒーなんて、なかなか飲めるもんじゃない。それがベトナム価格なので、どれだけ高級なコーヒーかうかがい知れるというもの。ちなみに、お土産用に粉末を購入すると「その辺のコーヒーとは格がちゃう！」と言わんばかりの

偉そうな木箱入りで250g約5000円。

オススメの飲み方は断然アイス。ホットは濃すぎる。注文すると、コーヒーセット一式をお盆に載せて運んでくる。カップもソーサーもグラスも、全てが高級感あふれており趣がある。店によっては、ナポレオンの絵が描かれた黒いコーヒーフィルターで提供され思わず襟を正してしまう。



コーヒーが落ちるまで約5分、この時間がいい。ベトナムコーヒーの真髄は時間を楽しむこと。コーヒーが落ちるまでゆっくり待ち、一口一口を味わいながら飲む。コーヒーを口に含み、周りの雰囲気も口に含み、安らぎのひとつときを楽しむことができればベトナムコーヒーの達人。

コーヒーが出来上がったら、アルミフィルターを横に置いてカッ



プの中を覗き込む。どろっとろろみがあり、艶やかな光沢を放つ漆黒のコーヒーに「ムムム、ただものじゃない」となる。うまく言葉で説明できないけど輝きが全然違う。農耕馬とサラブレッドの違いというか、どことなく気品がある。ちなみに、コーヒーの少なさに「えっ、これだけ？」とも驚く。

アイスにする前に味見する。濃厚だけど芳醇な味わいで、エスプレッソみたいに濃いけど苦いわけでもなく「こんなコーヒー飲んだことない」と思うはず。

ホットを味わったら、氷いっぱいグラスに一気に注ぎ込む。大量の水を溶かしながらゆっくり味わう。全体的に味が柔らかいというか丸いというか。濃厚だけど口当たりが優しく、砂糖やクリームを入れなくてもまろやかな味わいに「なるほど、伝説のコーヒーといわれるだけのことはある」と納得するはず。



ということで、ベトナムへ来たらぜひ味わっていただきたいオススメのコーヒー。ベトナム人ガイドに「ベトナムには少し変わった高級なコーヒーがあると聞いたんだけど…」と話を振ると、うれしそうにこのコーヒーのことを話してくれる。話を聞いてから「ないないない。そんなコーヒーあるわけないやん」と否定すると大人げない。「やだあ〜。ちょっと、冗談やめてよ〜。そんなコーヒー飲めるわけないじゃな〜い」と乗ってあげると会話が弾む。うそも方便ってやつですね。ということで、ちょっと強引だけど便で始まり便で終わったところで今回は終了。

という はるひこ
(伊藤 晴彦)
ドンズー日本語学校教師



会員各位
 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金
 代表 近藤 昇

2013年定期会員総会について (通知)

拝啓 向夏の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は当基金の活動に温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて通信58号でお知らせいたしました2013年定期会員総会を、下記の通り開催いたします。ご多忙中恐縮ですが、ご出席いただきたくご通知申し上げます。なお、会員総会は正会員(里親基金会員、一般基金会員)の2分の1以上の出席をもって成立いたします。当日の総会にご出席になれない方で委任状の提出のない方は、ご意見を議長に一任したものとさせていただきます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。同封の「出欠はがき」に必要事項をご記入の上、切手を貼って6月14日(金)必着でご返信ください。

記

日時 2013年6月15日(土)午後2時から午後5時まで
 場所 アジア文化会館101教室(地下1階)
 議題 1号議案 2012年度活動報告
 2号議案 2012年度決算報告および会計監査報告
 3号議案 2013年度活動計画案
 4号議案 2013年度予算案
 5号議案 役員改選の件
 休憩 20分
 説明会 BETOAJI奨学金について

議事の審議終了後、休憩を挟み今年度から新しく支援を行う予定の、少数民族の子どもたちを対象としたBETOAJI奨学金について、BETOAJIの担当者より、現地の写真などを交えて支援の内容について説明を行います。当基金での支援計画については今年度の事業計画書案をご覧ください。

説明会終了後は、参加者による懇親会を行います。年に1度の機会ですので多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

■ベトナム子ども基金2012年度活動報告(1号議案、2号議案関連)

2012年度にベトナム子ども基金が受け持った青葉奨学生(里子)の数は379名でした。会員の皆さま、ご支援ご協力くださった関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。奨学金支援のほかに、障害児教育研究センターへ、障害児教育に有用な教材および学校で使用する備品を寄付しました。

3月下旬にスタディーツアーを開催し、参加者7名で里子訪問、関連施設訪問、現地関係者と交流をいたしました。

通信については、年4回の発行を予定しておりましたが、年3度の発行にとどまりましたことをおわび申し上げます。今後の改善として、これまで編集担当者に発行を一任しておりましたが、新たに月1度の運営委員会開催時に編集会議を行い、定期的に通信を発行してまいります。

10月はABK秋祭りに参加し、来場者にベトナムコーヒーを提供し、寄付を募りました。また同じく、秋祭りに参加したABK在住のベトナム人留学生より、模擬店での売り上げの一部を賛助基金としてご寄付いただきました。2月には文京区の国際交流フェスタに参加し、同じくコーヒーを提供し寄付を募りました。こちらでいただいたご寄付は、春の木運動として青葉奨学会に送金しました。

2012年4月から2013年3月までに新しくご入会された会員の方は里親基金10名(内、学生3名)一般基

金会員1名、賛助基金会員3名、個別黄梅基金会員1名です。今後とも末永いお付き合いをお願い申し上げます。

事務局運営委員会を毎月第3土曜日に開催し、事務局運営について話し合いました。

■ベトナム子ども基金2013年度活動計画案(3号議案、4号議案関連)

2013年に子ども基金が受け持つことになりました青葉奨学生は約420名です。継続採用の学生について青葉奨学会に履歴票の送付をお願いしておりますが、まだ完了していないため、概数をお知らせいたします。青葉奨学会には引き続き、履歴票を早く送るように連絡いたします。

新たに、少数民族の子どもたちを対象にしたBETOAJI奨学金を里親基金、一般基金の一部、賛助基金その他のご寄付から支援します。今年度は、ベトナム中部ダクラク省の学生50名に9月より奨学金を支給する計画です。詳しくは当日、BETOAJI担当者よりご説明いたします。

手紙については、翻訳協力者を継続的に確保してご協力いただいておりますが、ベトナムからの手紙の発送が非常に遅れております。

大切な交流ですので、青葉奨学会代表のホウエ氏に状況の改善と、現地に様子についてもっと情報を提供していただくよう要請いたしました。

「春の木運動」については現地より協力要請がまいる、皆さまにご協力お願いいたします。

スタディーツアーにつきましては、今年度中の実施は見送ります。これまでのツアーの反省を生かし、来年度により皆さまのご要望にお応えしたツアーを行う予定です。

「ベトナム子ども基金通信」は、引き続き子ども基金の支援の様子や、現地の里子たちの様子を伝えてまいります。今年度は年4回の発行を予定しております。

事務局運営委員会を今年度も毎月第3土曜日に開催を予定しております。昨年10月より翻訳会や、運営委員会で十分な議論を行うため、勉強会の開催がありませんが、今後は開催できるように企画を考えてまいります。

■第5号議案 役員改選の件

現在の役員は、2013年5月31日をもって任期満了(ただし定款により辞任、任期満了後においても、後任の役員が就任するまではその職務を遂行)のため、総会に先立ち5月24日に行われました理事会において次期役員(第5期および第6期)役員を選出しました。これまで理事を務めてまいりました奥山義夫が退任し、新たに岡村多美子を理事に選出しました。定款により役員の任期は2015年5月31日までとなり、総会での承認後、役員就任となります。次期役員候補については以下の通りです。

理事長	近藤昇(再任)		
副理事長	岡村進(再任)		
理事	小木曾友(再任)	萩野正司(再任)	南康雄(再任)
	黒羽宏(再任)	岡村多美子(新任)	
監事	黒川厚雄(再任)	樋川好美(再任)	



【1号議案】

平成24年度 事業報告書

2号議案の平成24年度活動計算書は11Pにあります

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

1 事業実施の成果

- ・ 経済的理由等により教育を受ける機会に恵まれない子どもたちに対して奨学金を支給
- ・ 経済的に恵まれない地域の子どもたちへ学用品の支給
- ・ 障害児教育研究センターへの障害児教育用教材および、学校備品の寄付
- ・ 助成金を活用し、歯科検診、歯磨き指導を実施そのための水道設備の整備
- ・ スタディーツアー実施により、里子、現地スタッフと会員が交流、情報交換
- ・ ABK秋祭り、文京区国際交流フェスタに参加し活動PR、情報交換
- ・ 会報誌の発行、ホームページによる情報の提供

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲および人数	事業費の金額(千円)
奨学金支給事業	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する	6月、1月	ベトナム全域	10人	就学が困難な児童生徒379人	3329.127
奨学金支給事業(黄梅基金)	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する(単年)	1月～2月	ベトナム全域	3人	就学が困難な児童生徒30人	414.988
学校建設、施設改修事業	ホーチミン市障害児教育研究センターへの教材および備品を寄付	3月	ベトナムホーチミン市	5人	対象施設の児童生徒150人	79.645
その他支援事業	個別ノート支給および、自然災害被災地域の小中学校、孤児院等への支援	10月、1月～2月	ベトナム中部南部地域	10人	対象地域の児童生徒370人	60.490
助成金事業	ベトナムの子どもたちの虫歯予防のための歯磨き指導事業	5月、7月、10月、3月	ベトナムロンアン省	5人	対象地域の児童生徒300人	410
交流事業	会員と関係者との交流のために「ベトナム子ども基金通信」を発行する	6月、11月、3月	法人事務局	5人	会員と関係者500人	133.988
交流事業	スタディーツアーを実行し、現地の学校および生徒たちと交流を図る	3月	ベトナム北部南部	3人	会員7人と生徒および学校関係者学級	50.561
情報交換事業	ABK 祭り、国際交流フェスタ等に参加し、広報活動、他団体との情報交換を行う	10月、2月	東京都内	10人	一般市民不特定多数	8.831
情報交換事業	ホームページの充実を図り、活動内容を紹介し、国際交流の啓発を図る	随時	法人事務局	3人	一般市民不特定多数	9.565

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲および人数	事業費の金額(千円)
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

【2号議案】

平成24年度 貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,119,261	
流動資産合計		1,119,261
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
有形固定資産計	0	
(2)無形固定資産		
無形固定資産計	0	
(3)投資その他の資産		
固定資産合計		0
資産合計		1,119,261
II 負債の部		
1 流動負債	0	
流動負債合計	0	0
2 固定負債	0	
固定負債合計	0	0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	1,005,076	
当期正味財産増減額	114,185	
正味財産合計		1,119,261
負債及び正味財産合計		1,119,261

平成24年度 財産目録

平成25年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
手元現金	127,517	
みずほ銀行普通預金	208,077	
ゆうちょ銀行通常貯金	783,667	
流動資産合計		1,119,261
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
有形固定資産計	0	
(2)無形固定資産		
無形固定資産計	0	
(3)投資その他の資産計		
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		0
資産合計		1,119,261
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計		0
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		0
正味財産		1,119,261

【2号議案】

平成24年度 計算書類の注記

1. 重要な会計方針
計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。
2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	奨学金支給事	学校建設施設	その他の支援	助成金事業	交流事業	情報交換事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費	4,043,788	100,000	100,000		500,000	100,000		107,200	4,950,988
2. 受取寄附金	292,745	50,000	60,490		100,000	20,000		28,186	551,421
3. 受取助成金等				410,000					410,000
4. その他収益								210	210
経常収益計	4,336,533	150,000	160,490	410,000	600,000	120,000	5,777,023	135,596	5,912,619
II 経常費用									
(1) 人件費									
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費									
支援事業費	3,731,617	79,645	60,490				3,871,752		3,871,752
業務委託費				410,000			410,000		410,000
地代家賃	100,000	46,000	60,000		80,000	60,000	346,000	38,000	384,000
会議費	7,275	7,275	7,275		30,727	7,275	59,827	3,000	62,827
旅費交通費	482,116				85,324		567,440	39,638	607,078
印刷製本費					87,850		87,850	1,238	89,088
通信運搬費					303,754	9,565	313,319	30,000	343,319
消耗品費						15,510	15,510	8,445	23,955
支払手数料	2,840						2,840	3,575	6,415
その他経費計	4,323,848	132,920	127,765	410,000	587,655	92,350	5,674,538	123,896	5,798,434
経常費用計	4,323,848	132,920	127,765	410,000	587,655	92,350	5,674,538	123,896	5,798,434
当期経常増減額	12,685	17,080	32,725	0	12,345	27,650	102,485	11,700	114,185

3. 使途等が制約された寄附金等の内訳
使途等が制約された寄附金等の内訳(正味財産の増減および残高の状況)は以下の通りです。
当法人の正味財産は1,119,261円ですが、そのうち使途が特定されているものはありません。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
その他の支援事業受け取り寄附金	0	50,600	50,600	0	会員より50,600円の寄付を受け、金額を該当事業に使用しました。
合計	0	50,600	50,600	0	

4. 役員およびその近親者との取引の内容
役員およびその近親者との取引は以下の通りです。
5. その他特定非営利活動法人の資産、負債および正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員および近親者との取引
(活動計算書)		
活動計算書計	0	0
(貸借対照表)		
貸借対照表計	0	0

- ・ 事業費と管理費の按分方法
各事業の経費および事業費の管理費に共通する経費のうち、地代家賃、会議費、旅費交通費、通信運搬費、印刷製本費については、従事割合に基づき按分しています。
- ・ その他の事業に係る資産の状況
なし

【3号議案】

平成25年度 事業・活動計画書(案)

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

事業実施の方針

経済的理由等により教育を受ける機会に恵まれないベトナムの子どもたちに対して、奨学金を支給する必要な学校施設や教育施設を建設・改修し教育環境の改善していく。昨年度助成金で実施した歯科検診、歯磨き指導を子ども基金のその他の支援事業として引き継ぎ、子どもたちの歯科衛生指導を支援する。活動の様子を知らせるために通信を発行し、会員関係者との交流をはかる。自治体などの交流行事に参加し、活動内容を広報する。ホームページを通じて情報を発信して活動を広報する。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲および人数	事業費の金額(千円)
奨学金支給事業	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する	1月、5月、8月	ベトナム全域	20人	家庭の経済状況が困難な児童生徒420人	4000
奨学金支給事業(黄梅基金)	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する(単年)	1月~2月	ベトナム全域	3人	家庭の経済状況が困難な児童生徒30人	400
奨学金支給事業(BETOAJI基金)	ダクラック省の少数民族の子どもたちへの奨学金支給	9月	ベトナムダクラック省	20人	就学が困難な児童50人	457
学校建設、施設改修事業	学校建設および施設改修	3月	ベトナムホーチミン市	5人	対象施設の児童生徒150人	144
その他支援事業	個別ノート支給および、自然災害被災地域の小中学校、孤児院等への支援	10月、1月~2月	ベトナム中部南部地域	10人	対象地域の児童生徒370人	340
その他支援事業	ベトナムの子どもたちの虫歯予防のための歯磨き指導事業	10月、3月	ベトナムロンアン省	5人	対象地域の児童生徒300人	50
交流事業	会員と関係者との交流のために「ベトナム子ども基金通信」を発行する	6月、9月、12月、3月	法人事務局	5人	会員と関係者500人	408
情報交換事業	現地関係者との交流、および情報交換	随時	法人事務局および、ベトナム	10人	会員と関係者	80
情報交換事業	ABK祭り、国際交流フェスタ等に参加し、広報活動、他団体との情報交換を行う	10月、2月	東京都内	10人	一般市民不特定多数	35
情報交換事業	ホームページの充実を図り、活動内容を紹介し、国際交流の啓発を図る	随時	法人事務局	3人	一般市民不特定多数	57

【2号議案】

平成24年度 活動計算書			
平成24年4月1日から平成25年3月31日まで			
(単位:円)			
科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	4,536,000		
賛助会員受取会費	414,988	4,950,988	
2 受取寄附金			
受取寄附金	551,421		
施設等受入評価益	0	551,421	
3 受取助成金等			
受取民間助成金	410,000	410,000	
4 事業収益	0	0	
5 その他収益			
受取利息	210	210	
経常収益計			5,912,619
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
支援事業費	3,871,752		
業務委託費	410,000		
地代家賃	346,000		
会議費	59,827		
旅費交通費	567,440		
印刷製本費	87,850		
通信運搬費	313,319		
消耗品費	15,510		
支払手数料	2,840		
その他経費計	5,674,538		
事業費計		5,674,538	
2 管理費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
地代家賃	38,000		
会議費	3,000		
印刷製本費	1,238		
通信運搬費	30,000		
旅費交通費	39,638		
消耗品費	8,445		
支払手数料	3,575		
その他経費計	123,896		
管理費計		123,896	
経常費用計			5,798,434
経常外費用計			
当期正味財産増減額			114,185
前期繰越正味財産額			1,005,076
次期繰越 次期繰越正味財産額			1,119,261

【4号議案】

平成25年度 活動予算書			
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで			
(単位:円)			
科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	4,800,000		
賛助会員受取会費	400,000	5,200,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	900,000		
施設等受入評価益	0	900,000	
3 受取助成金等			
受取民間助成金	0	0	
4 事業収益	0	0	
5 その他収益			
受取利息	200	200	
経常収益計			6,100,200
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
支援事業費	4,500,000		
地代家賃	346,000		
会議費	80,000		
旅費交通費	560,000		
印刷製本費	130,000		
通信運搬費	330,000		
消耗品費	22,000		
支払手数料	3,000		
その他経費計	5,971,000		
事業費計		5,971,000	
2 管理費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
地代家賃	38,000		
会議費	3,000		
印刷製本費	1,500		
通信運搬費	30,000		
旅費交通費	30,000		
消耗品費	10,000		
支払手数料	4,000		
その他経費計	116,500		
管理費計		116,500	
経常費用計			6,087,500
経常外費用計			
当期正味財産増減			12,700
前期繰越正味財産			1,192,621
次期繰越 次期繰越正味財産			1,205,321

【4号議案】

活動予算書の事業費の内訳								
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで								
(単位:円)								
科目	奨学金 支給事業	学校建設 施設改修事業	その他の 支援事業	交流事業	情報交換 事業	事業部門計	管理部門	合計
(1) 人件費								
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費								
支援事業費	4,100,000	80,000	320,000			4,500,000		4,500,000
地代家賃	200,000	20,000	30,000	56,000	40,000	346,000	38,000	384,000
会議費	32,000	9,000	5,000	17,000	17,000	80,000	3,000	83,000
旅費交通費	430,000	10,000	10,000	20,000	90,000	560,000	30,000	590,000
印刷製本費	20,000			110,000		130,000	1,500	131,500
通信運搬費	62,000	24,000	24,000	200,000	20,000	330,000	30,000	360,000
消耗品費	10,000	1,000	1,000	5,000	5,000	22,000	10,000	32,000
支払手数料	3,000					3,000	4,000	7,000
その他経費計	4,857,000	144,000	390,000	408,000	172,000	5,971,000	116,500	6,087,500
合計	4,857,000	144,000	390,000	408,000	172,000	5,971,000	116,500	6,087,500

●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2013年3月

2013年4月

◆ベトナム子ども基金会員募集！(友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！)

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ): トクヒ)ベトナムコドモキキン

里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

ご入金についてのお知らせ！！

4月1日付でみずほ銀行口座へ里親基金1口2万円のお振込を頂きました。しかしながら、お振込くださった方のお名前のご記入がないため、どなたのお振込か分かりません。お心当たりの方は、お手数ですが、事務局 坂本までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

【連絡先】電話・FAX: 03-3945-2415またはE-mail: info@v-c-f.org

◆事務局だより

子ども基金通信を最後までご覧くださり、ありがとうございます。今年度も皆様のご協力により、ベトナムの子どもたちの支援を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度は新たに、留学生を中心に立ち上げたBETOAJIによる奨学金支給事業を支援する計画です。すでに青葉奨学生の中にも少数民族の学生がおりますが、多くの奨学生の中でもとりわけ厳しい経済状況に置かれており、多くの子どもが中学卒業後、家業などに従事して進学を断念しているのが実情です。今後は、彼らの教育水準向上に特化して支援をするBETOAJIの活動を応援したいと思っております。彼らの活動や現地の様子についても通信誌上で報告して参ります。

さて、昨年度の総会で取り上げました、認定資格の取得ですが、昨年度は定められている要件を満たすことができず申請を断念いたしました。また、現在青葉奨学会の運営体制の刷新の対応に追われており、こちらが落ち着きましたら、なるべく早く認定申請の作業に取り掛かります。

その他活動についてのご質問等がございましたら、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。(坂本)

発行人：近藤昇 編集人：黒羽宏 印刷：プリントパック

©Vietnam Kodomo Kikin 2013